



建築を語る思想家

四六判 各巻約 190 ページ 本体予価各 2,000 円
2019 年 10 月より順次刊行予定 全 4 巻予定

思想とは無縁の建築が多数生まれる現代において
建築にとって思想が重要であるかを改めて検証する

デリダ

松井 健太(東京大学 特別研究員) 訳
本体予価 2,000 円 ISBN 978-4-621-以下未定
2019 年 10 月刊行予定 指定配本締切 2019 年 9 月 25 日

建築においても彼の提唱した「脱構築」の概念でなじみが深い。建築形体として「なんとなく」理解している人々が多い。その思想自体が生まれ、デザインとして昇華されていく過程を詳らかにする。

冊

貴店番線印

貴店番線印

ドゥルーズ&ガタリ

田中 明(武庫川女子大学 准教授) 訳
本体予価 2,000 円 ISBN 978-4-621-以下未定
2019 年 10 月刊行予定 指定配本締切 2019 年 9 月 25 日

「戦争機械」「器官なき身体」といった概念を次々と想像した二人。現代フランスの最難関の思想について、建築思想に有用なエッセンスを切り出す、刺激的な試みが一冊に詰まっている。

冊

ベンヤミン

末包 伸吾(神戸大学 教授) 訳
本体予価 2,000 円 ISBN 978-4-621-以下未定
2019 年 11 月刊行予定 指定配本締切 2019 年 10 月 25 日

「パサージュ論」で名高いベンヤミンは、近代化で失われたものに目を凝らし、20 世紀の初頭を予見した。彼の思想を分析することにより、これからの建築都市の潮流を感じ取るヒントとする。

冊

貴店番線印